

人 口 と 食 糧

1950年から1970年の20年間に、世界の人口は、22億5,000万人から、36億3,000万人へ、1.6倍の増加を示した。人口は爆発すると云われる所以である。

この間、世界の国々の穀物生産は、6億3,000万トンから12億6,000万トンへ、2倍の増加を示し、人口増を上回った。

もっとも、日本だけが、食糧生産の低下を示し、世界の中で、唯一つの例外となった。

開発途上国の増産が急ピッチに進み、穀物の供給が、需要を上回ったために、カナダ、USA、ソ連では耕地面積を大幅に縮小せざるを得なかった。日本は、多少違った意味だが、矢張り耕地面積が減少した。

耕地面積が大幅にふえたのは、ナイジェリア(2.5倍)、南ア(1.7倍)、メキシコ(1.8倍)、アルゼンチン(1.4倍)、ブラジル(2.3倍)、中国(1.5倍)、タイ(1.4倍)、オーストラリア(2.0倍)などである。

これらの国々が、アメリカ、カナダ、フランス、と共に、世界の穀倉になって行くのは、遠い将来の事ではあるまい。

世上、食糧危機を唱える方々もおられるが、上述の数字からも明らかなように、世界全体の総和では、食糧の過剰はあっても、不足は起こり得ないとするのが理性的である。

いっぽう、除草剤を中心とする植物調節剤の将来は、経済性・気候・耕作法などによって左右されるとはいえ、面積の函数であることがはっきりしている以上、これらの国々と共に歩んで行くことは、ほぼ間違いがないと思われる。

(保土谷化学工業(株)農薬部長 石本信夫)

目 次

(第10巻第3号)

中華人民共和国の旅……………	2
＜日本植物調節剤研究協会＞ 東北支部長 藤巻竹千代	
近くて遠い中国……………	2
上海から南京、揚州……………	2
南京から西安へ……………	4
西安から大寨……………	5
大寨から北京へ……………	6
服 装……………	6
おわりに……………	7
畑作雑草の生態と防除……………	8
＜千葉県農業試験場 竹内栄次郎＞	
はじめに……………	8
1. 雑草の生育相……………	8
メヒシバ……………	8
スベリヒユ……………	9
カヤツリグサ……………	9
エノキグサ……………	10
アオビユ……………	10
2. 雑草防除による年次雑草発生の 変異……………	10
3. 千葉県内の畑地雑草の発生消長 と防除……………	11
おわりに……………	13
植調協会だより……………	14
◎ 第31回役員会開催す……………	14
◎ 会議開催日程……………	16

第6回APWSS会議の開催案内

第6回APWSS会議は、1977年7月11日より17日にかけて、ジャカルタ市内で開催することになりましたので、ご案内申し上げます。